



414
A2767
1



千八百七十七年刊行モ一リス、ブロック氏著佛
朗西行政辞書第七百八十六葉ヨリ七百九十八
葉ニ至ル

大正十一年四月
大隈侯爵邸書贈

宇川盛三郎譯

○官有物ノ事

此ノ篇ニ於テハ唯國有物、府縣有物及ヒ郡有物
ヲ公有物ト私有物トノ點ニ於テ論究スヘシ

○序次

第一篇 誘引

第一章 舊王國時代ノ官有物(一ヨリ一一ニ

大正十一年四月

至ル

第二章 千七百九十年以降ノ官有物

第一條 所有權ヲ變更シ能フ_一（一二ヨリ一五ニ至ル）

第二條 所有權ノ變更（一六、一七）

第三條 非常ノ官用物（一八ヨリ二四ニ至ル）

第二篇 官有物ヲ組織スル所ノ財産

第一章 官有物ノ分別（二五ヨリ二九ニ至ル）

第二章 公有物_{（三〇）}

第三章 國有物_{（三一）}

第一條 有形官有物_{（三二ヨリ三八ニ至ル）}

第二條 無形官有物_{（三九ヨリ四一ニ至ル）}

第四章 皇有物_{（四二）}

第三篇 官有物事務局

第一章 總論_{（四三ヨリ四九ニ至ル）}

第二章 公有物ニ特別ナル規程_{（五〇ヨリ五二ニ至ル）}

第三章 國有物ニ特別ナル規程

第一條 國有物ノ受ク可キ變更

第一項 得收_{（五三、五四）}

第二項 所有權ノ變更_{（五五ヨリ五八ニ至ル）}

至ル

第三項 交易 (五九、六〇)

第二條 國有物ノ支配

第一項 國有物ニ関スル事務ヲ掌トル

官吏 (六一ヨリ六四ニ至ル)

第二項 公用ニ動産^{器ノ用ニ國有物材}不動産ノ支用 (六五、

六六)

第三項 定期貸渡約定 (六七、六八)

第四篇 官有物ニ関スル訴訟及テ審判

第一章 所管 (六九ヨリ七三ニ至ル)

第一條 行政所管 (七四ヨリ九一ニ至ル)

第二條 司法所管 (九二、九三)

第二章 官有物ニ関スル訟事中國ノ代理々

ルヘキ官吏 (九四)

第一條 所有權ニ関スル訴訟審判 (九五ヨリ

一〇三ニ至ル)

第二條 納金徴收ニ関スル訴訟審判 (一〇

四、一〇五)

第三章 官有物ニ関スル訴訟審判ノ手續 (一

〇六)

第一條 所有權ニ関スル訴訟審判(一〇七)

ヨリ一二一ニ至ル

第二條 納金 徴收ニ関スル訴訟審判(一

二ニヨリ一二五ニ至ル)

書目

比較行政

○第一篇 誘引

○第一章 舊王國時代ノ官有物

一 此章ニ於テハ官有物ノ濫觴ニ溯ルヲ止メ之レニ関スル往時法律ノ最モ大切ナル諸点ヲ簡單ニ記述スルヲ以テ足レリトスヘシ

二 官有物所有權ノ他ニ移轉シ能ハハル

イールド、フランス及ヒタルレアリ二州ノ君主タリシユイグカペー氏佛朗西王ノ位ニ登リシ中前所有ノ二州ヲ皇有物ニ合併シ其制度ヲ改定シタル此時ニ於テ皇有物所有權ノ他ニ移

轉シ能ハサル主義定マリシト主張セシモノ少
ナカラス然レ氏談所有權ノ他ニ移轉シ能ハサ
ル主義ノ思想ハ既ニ一般ノ精神中ニ擴張セル
モノナルハ争ハサルモ一法規ノ形ヲ以テ此主
義ノ始メテ^{世ニ}顯ハレタルハ實ニモリツブハベ
ル王千三百十八年七月十八日ノ勅令之レナリ
然リ而シテ此主義ノ公法ノ基ヒタルヘキ主義
ノ位置ニ達センニハ尚ホ二百余年間ヲ要シタ
リキ此ノ主義ノ公法大主義ノ位置ニ達シタル
ハ千五百六十六年ノ^トニシテ該年二月病院^ヲ尚

書ノ^テ發議ニ據リ王國貴族諸侯ノ集會ニ於テ官
有物[。]勅令ト称スルム[。]レ[。]府ニ於テノ勅令ヲ
發シタリ此勅令タル即チ皇有物所有權ノ他ニ
移轉シ能ハサル[。]トノ主義ヲ公言シタルモノニ
シテ爾來此件ニ関スル諸般規則ノ基礎ハ皆此
主義ニ依リタルモノトス

三 此敕令第一條ニ依レハ皇有物所有權ノ他
ニ移轉シ得ル[。]トハ唯二個ノ場合ニ於テノミ之
レアルモノトス其一ハ佛朗西王諸弟ニ与[。]ル
領地領物ニシテ此諸弟ニ於テ男子ナク逝去ス

大
女
宮

ル時ハ元ト之レヲ与ヘタル片ノ有様ヲ以テ王家ニ再帰スルモノトシ其二ハ軍用費ノ為メニ現金ヲ以テ賣拂フヲニシテ此レヲ行ハシニハ先ツ相當ノ許可状ヲ下シ之レヲ各高等裁判所ニ公布スルヲ要スヘシ然レ氏此ノ場合ニ於テハ永久何時ニテモ再コ之レヲ買戻スノ権アルモノトス

四 皇有物所有權ノ他ニ移轉シ能ハサルノ主義ニ對シ第三ノ取除ケハ千五百六十六年二月即チ前勅令發布ト同月ニ是レ又ムレシ府ニ

於テ發布シタル一法令ヨリ起ルモノニシテ此勅令ハ既ニ大官有物小官有物ノ區別ヲ萌芽ヲ含ムモノナリ而シテ此ノ區別ハ千六百六十七年千六百六十九年千六百七十二年四月八日ノ法令千六百八十二年十一月廿九日ノ參議院議決千七百二年四月及千七百八年四月ノ法令ニ依リ漸次明白トナレリ後來土地及ヒ高等中等下等ノ裁判權ヲ有スル采邑ヨリ成立スル大官有物ニシテ所有權ノ他ニ移轉シ能ハサル主義ヲ附属セシメ所有權ヲ變更シ能フノ主義ハ

大土地大采邑ヨリ引キ分ケタル物件ヨリ成立
スル小官有物ノ領分ニ於テアルモノトス此物
件ハ千八百七年八月ノ法令中ニ詳記シテ遺ス
トコロナシ

五 ムーレン府ニ於テ發布シタル第一法令第
二條ハ皇有物ニ釋義ヲ下シテ曰ク明ラカニ我
王位ニ供ヘ、合セ、併シタルモノナリト明文ノ合
併又ハ我徵收吏及ヒ官吏ニ依テ十年間支配
サレ計筭上ニ載ルモノナリト不文ノ合併然レ
レ此ノ釋義アルヲ以テ明文若クハ不文ニテ

王位ニ合併シタル者ヨリ他ニ官有物ト称スヘ
キモノナシト云フ可ラス即チ所有權變遷ノ主
義ヨリ起ル所ノ官有物アリ往時政体ノ規程ニ
依レハ一王即位ノ時其兩親ヨリ受ケ所持スル
所ノ財産ハ當然王位ニ合併スルモノニシテ即
位ノ後相續買得若クハ他ノ方法ニ依テ得タル
土地采地ニ於テモ同様ノ事ナリトス而シテ此
ノ合併ハ王一人ノ望ヨリ起ルモノニアラスシ
テ王ト國ト相合スルヨリ起ルモノナリ然シテ
此ノ王ト國トノ合致ハ王ニ對スレハ國ニ屬ス

ル統へテノ者ヲ得又國ニ對スレハ王ニ屬スル統へテノ者ヲ得セシ。

六 官有物ノ期滿得收エンプレスククリテイナキト官有物所有權ノ

他ニ移轉シ能ハサルトニ付テハ既ニ細論シタ

レハ期滿得收ナキトニ就テハ別ニ多言ヲ要セ

サル可シ此ノ新主義ハ官有物所有權ノ他ニ移

轉シ能ハサル主義ヨリ必ス起ルトコロノ結果

ナリ若シ官有物ヲ多少永キ間占有シタルノ故

ヲ以テ其所有權ヲ一個人ノ手ニ落トサシムル

トアラハ官有地所有權ハ他ニ移轉シ能ハサル

モノナリト公言スルモ將々何ノ益カアラシク然

レ氏官有地所有權ノ他ニ移轉シ能ハサルノ主

義ハ既ニ己ニ之レヲ争フモノナキ時ニ於テモ

期滿得收ナキトノ主義ニ至テハ諸法律家ノ間

ニ異論少ナカラサリシ此第二ノ主義ニ関スル

第一ノ敕令ハ千五百三十九年六月三十日發布

フランソア第一世ノ敕令之レナリ爾來此ノ主

義ニ関シ發布シタルモノハ千五百五十七年及

ヒ千六百六十七年ノ敕令ニシテ此ノ修リノ勅

令ヲ以テ諸著述家ノ異論ニ其終リヲ告ケシメ

タリ

太
文

七 期滿得收ナキトハ所有權ノ他ニ移轉シ能ハサルトヨリ生スルモノナレハ小官有物ニ於テモ又單ニ臨時ノ者ノ如ク若クハ官有物ノ收益ノ如ク認ムヘキ財產譬ヘハ無相續財產沒收無請求財產沒收庶子相續財產沒收死~~去~~外國人財產沒收等專ラ臨時沒收ノ名ニ於テ知ラレタル者ニシテ國王ニ歸スル者ニ於テモ此期滿得收ナキトハ適用スル能ハサリシモノナルハ當然ノ結果ナリ

八 國王ヨリ其諸弟ニ与フル領地領物拂下ケ

交易ノ一 國王ヨリ其諸弟ニ与フル領地領物ニ付テハ別ニ爰ニ論記セサレハ宜シク其篇ニ就テ見ルヘシ

官有物拂下ケトハ軍用費ノ為メニ官有物ノ賣讓之レナリ此ノ賣讓ニ付テハ三ヶ條ノ約束ヲ要スルモノニシテ其一此ノ賣讓ハ皆現金ニ於テスルヲ要シ其二此ノ賣讓ハ高等裁判所ニ於テ記入シタル許可状ニ基ヒスルヲ要シ其三此ノ賣讓ハ永久買戻スヲ得ルノ權アルヲ要ス此ノ買戻シノ權ハ如何ナル時ニ於テモ期滿得免

太
女
官

ナキモノナレハ拂ヒ下ケタル財産ハ賣讓シタル者トモ又王位ヲ離レタルモノトモ認ムル能ハサルモノナリ

九 ムーレン府ニ於テノ勅令中ニハ別ニ明文ナキモ官有物財産ハ交易ノ手續ヲ以テ讓与スルヲ得ヘシ何トナレハボスケド氏佛朗西陸軍大將ニシテ其名ヲ擧ケシ人其ノ言ヘル如ク若シ國ニシテ交易ノ手續ヲ以テ其土地ヲ讓与スル時ハ必ス之レニ代ル者ヲ得ヘシ而シテ此ニ代ル者ハ元ト讓与シタル者ノ王位ニ屬セシ如ク此レ又直

ニ王位ニ屬スルモノトス然レ氏此ノ交易ナル語ハ官有物ノ受ケシ困難ナル締約ヲ飾言スルニ屢々用ヒタルモノナリ故ニ千六百六十七年ノ勅令ヲ以テ交易ニ与ヘタル官有物ト雖氏其交易ヨリ起ル所ノ損害甚シキカ若クハ其交易ニシテ例規ノ手續ヲ履行セサリシ中ハ譬ヘ交易ニ與ヘタル官有物ト雖氏國王再ヒ之レヲ所令ニ依レハ此ノ例規ノ最モ大切ナル者ハ交易シタル雙方遺物ノ價格ヲ評定スル之レナリト

ス

一〇 拂下ケト交易トノ性質ニ於テ異ナル所
ハ拂下ケニ於テハ一時ノ所有権ヲ附与スル
モ何時ニテモ之ヲ取戻スヲ得ヘキモノニシ
テ交易ニ於テハ永久確定ノ所有権ヲ附与スル
ニアツテ唯交易ノ手續其例規ヲ履行セサリシ
片ノミ之レヲ取戻スヲ得ヘキモノトス

二 國有物ノ稱ヲ以テ發布シタル千七百九十
年十二月一日ノ法律ヲ以テ千五百六十六年以
來拂下ケ若クハ交易シタル官有物ニ関スル諸

事ヲ規定シタリ爾來此件ニ付テ發布シタル法
律ハ其數夥多ナレド佛朗西第一共和政府第七
年風月十四日ノ法律ヲ以テ悉皆改制シタリ

○第二章 千七百九十年以降ノ官有物

○第一條 所有権ヲ變更シ能フ

一二 千七百八十九年ノ建國議會ハ舊時ノ法律
ヲ表底共ニ覆ヘシタリ旧時ノ法律ニ於テハ唯
一ノ官有物ノミアリテ即チ國民ノ官有物之レ
ナリトセリ後來ハ唯一ノ官有物ノミアリテ即
チ國民ノ官有物之レナリトス旧時ハ國王其官

大
文
官

有物ニ對シ所有權變更ノ禁止ノ外ハ真ノ所有
者タルノ所置ヲ為セリ後來ハ國王國民ノ官有
物ニ對シ國民ヨリ一法律ヲ以テ殊更ニ附与サ
レタル國有物一部分ニ就テノ入額所得并ニ占
有ノ權ヲ除クノ外何レノ權利モナキモトス
所有權ノ他ニ移轉シ能ハサルトハ旧時ノ根本
ナル主義ナリシカ所有權ヲ變更シ能フヲ以
テ後來ノ新主義ナリトス旧時ハ官有物ヲ以テ
王位ノ重ナル收入トナセシカ後來王位ノ收入
ハ王室費用定額金ノミニアリトス

三 舊時ノ法律ニ於テハ王位ノ官有物ハ其所
有權ヲ他ニ移轉シ能ハサルモノナレハ君主々
ルノ故ヲ以テ王ノ官有物ニ屬スル者ト王一個
人タル所有者ノ故ヲ以テ王ノ所有セシ者トノ
區別ヲ為サ、リシ然レモ旧時王位ニ屬セシ君
主權ノ國民ノ手ニ遷リシヨリ王位ノ官有物ニ
シテ國王ノ手ヲ離レ國民ノ手ニ遷ルルハ此ノ
區別ヲ為スハ是非共必要ナルモノトス即チ國
民君主權ノ主義ヲ害スルトナクシテ所有權ヲ
變更スル能ハサル所ノ財産ハ其所有權ハ他ニ

移轉シ能ハサルモノトシ其他統テノ財産ハ所
有權ヲ變更シ能フモノトス

(一四) 前論是レ即チ公有物ト國有物トノ區別ノ
起リシ所以ニシテ此ノ區別ノ主義ハ千七百九
十年十一月二十一日十二月一日ノ法律第二條
中ニ掲ケ其全文ハ民法第五百三十八條ニ記載
セリ

(一五) 建國議會ノ事業ハ此ノ如シ然リ而シテ該
會ハ單ニ主義ヲ定ムルノミニ止ララスシテ官
有物ノ支配ヲ自カラ實行シ之レカ中ニ夥多ノ

財産ヲ投入シ此財産ニ適用スルニ該會ニ於テ
公言^{プロクラメイ}セシ所有權ヲ變更シ能フ^フノ原則ヲ以テ
シ遠カラスシテ當時財政ノ衰ムヘキ景況ヨリ
必要トナレル財本ヲ得ンタメ此等ノ財産ヲ官
有物中ヨリ離レシメタリ

第二條 所有權ノ變更

(一六) 千七百八十九年十一月二日四日ノ法律ニ
依リ僧族ノ財産ハ國民ノ用ニ供セラレタリ建
國議會ニ於テ取除ケタル養育院ノ財産ハ千七
百九十三年三月十九日國約議會ニ於テ國民ノ

取押へ、内ニ入レラレ其所有權ノ變更ハ千七百八十九年十二月十九日ヨリ建國議會ニ於テ其始メヲ告ケシメ佛朗西第一共和政府第二年ニ於テ殆ト其終リヲ告ケシメタル僧族財産所有權ノ變更ニ引續キタリ尚ホ此期限間ニ於テハ千七百九十二年七月十七日ノ勅令ヲ以テ外國移住者ノ財産ノ取上ケ並ニ賣却ヲ命シタリ又~~佛~~佛朗西第一共和政府第二年霧月十三日ノ法律ヲ以テ教正區寺院、僧區寺院、別房寺院、等ノ財産並ニ建立資金ニ備ヘタル資産ハ國民所有

物ノ部ニ入ルヘキヲ決定シ此資産ヨリ起ル所ノ動産不動産ハ他ノ官有物若クハ國^有動産同様ニ支配サレ又賣却セラル可キヲ決定シ登記局ハ徵集スヘキ資産ハ之レカ催促ヲ為スノ權アルヲ^ハ決定シタリ是等諸種ノ財産ハ則チ國有財産ト稱スル所ノ者ニシテ其所有權ノ變更ハ各々特別ナル法律ニ依テ支配サレ夫レヨリ起ル所ノ爭論ニ至テハ特別ノ裁判官是レヲ判決スヘキモノトス

(一七) 僧族財産沒收ノ事業ハ其充分ヲ極メタル

上後來僧族ニハ俸給ヲ与ヘタルヲ以テ再ヒ旧
時ノ財産ヲ所有スルヲ能ハサリシ然レ氏養育
院ニ至テハ佛朗西第一共和政府第五年正月十
六日ノ法律ニ依リ先ニ失ヒタル所ノ財産ヲ再
ヒ所有スルヲ得タリ又佛朗西第一共和政府第
十年芽月十八日ノ天主教ノ組織ニ関スル法律
ハ僧寺院及ヒ其附屬公園ニシテ其所有權ヲ變
更セサリシ者ハ別房寺院ノ僧及ヒ僧補ニ返却
スヘキヲ決定シ往時天主教ノ用ニ供ヘタル
建築ニシテ尚ホ國民ノ手ニアル者ハ僧區及ヒ

別房區毎ニ付キ一建築ノ割合ニテ府知事縣令
ノ決議ヲ以テ教正ノ用ニ供ヘ可キヲ決定シ
タリ又寺院旧財産ヨリ起ル所ノ者ニシテ所有
權ノ變更セサリシ財産ハ佛朗^西第一共和政府第
十一年暑月七日ノ政府ノ決定ニ依リ各々其是
ヲ要スヘキ者ニ返却シタリ又佛朗西第一共和
政府第八年ノ憲法ヲ以テ共和政府ニ屬シ再ヒ
之ヲ取戻ス能ハサル者ナリト公言シタル外國
移住者ノ財産ニシテ赦罪サレタル移住人ニ一
分ハ共和政府第十年ニ於テ一部ハブールボン

族帰國ノ節ニ於テ返却シタル者ニ付テハ千八百二十五年四月廿七日ノ法律ヲ以テ此等移住人ニ与フヘキ補償トシテ十億萬佛ノ貸本ヨリ生スル三千万佛ノ歳給ヲ附与シタリ

○第三條 非常ノ官有物

(一八) 今此來歴ノ篇ヲ終ルノ前ニ千八百十年一月三十日ノ元老院議決ニ依テ組織サレタル非常ノ官有物ニ付キ數言ヲ記述スヘシ

(一九) 非常ノ官有物ハ皇帝ニ於テ和親及ヒ開戦ノ權ヲ執行シ奪掠若クハ公然又ハ秘密ノ締約

ニ依リ得タル所ノ領地及動産不動産ヲ以テ組織セララル、者トス

(二〇) 非常ノ官有物ハ海陸軍ノ費用ニ供シ帝國ノ兵士及ヒ國家ニ對スル文武ノ大功劳ヲ稱_賞スルニ支向ケ諸紀念碑ヲ建築スルニ諸工事ヲ行フニ諸工術ヲ獎勵スルニ其他帝國ノ華飾ニ要スル者ニ支用スルモノトス

(二一) 非常官有物ハ國有物ト全ク區別セラレ其支配タル特別ノ官吏ニ任シ其會計モ又特別ナリキ

(三) 伊太利日耳曼及ヒ佛朗西ニ於テハ此官有物ヲ以テ貴族ヲ封シタルト屢々ナリ而シテ此封タル取消スト能ハサル者ナレ氏封状中ニ必ス記載スヘキ一個條ニ依リ國家ニ再歸スヘキ者トス此封タル世襲ナルト屢々ナリ然レ氏此場合ニ於テハ貴族封采ニ適用スル所ノ規則ニ從フモノトス

(三) 千八百六年十一月二十一日ノ敕令ニ依リ英吉利人ヨリ沒收シタル佛朗西ニ於テ現在スル所ノ財産并ニ南部、ロアレト及ヒヲルレア

ノ堀河ハ其所有權ヲ國ヨリ非常官有物ニ移轉シタルヲ以テ該官有物ヲ增加セシメ且ツ非常官有物ヨリ其封ヲ受クル所ノ者ハ外國ニ於テ其所有スル所ノ財産ヲ以テ佛朗西ニ現在シ是レ又世襲及ヒ再歸ノ規則ニ從フ所ノ財産ト交^換スルヲ得タルヲ以テ佛朗西ノ土地ニ現在スル非常官有物ノ部分ヲ洪ヒニ増加セシメタリ

(四) 佛朗西第一帝國ノ滅亡ハ非常官有物ヨリ佛朗西外ニ現在シタル財産ヲ離レシメタリ何トナレハ此財産ヨリ封ヲ受ケタル者ハ皆外國

太
文
宮

政府ノ掌中ニ陷リタレハナリ此滅亡ハ又佛朗
西ニ於テ現在スル財産ニシテ英吉利人ヨリ没
收シタル者ヲモ非常官有物ヨリ離レシメタリ
トレテイ、ド、パリ―第九條ヲ參看スヘシ終リニ
千八百十八年五月十五日ノ法律ヲ以テ先ノ如
ク減少サレタル非常官有物ヲ以テ全ク國有物
ニ合セラレタリト公告シ千八百三十二年三月
二日ノ法律ヲ以テ後來ハ非常官有物ヲ形作セ
ザルヘク奪掠及ヒ公然若クハ秘密ノ締約ニ依
リ得タル財産ハ皆國ニ屬スヘキノ主義ヲ公言

シタリ

○第二篇 官有物ヲ組織スル所ノ財産

○第二章 官有物ノ分別

二五 國ハ一ノ無形ノ人ニシテ一國住人ノ全体
ヲ網羅スル者ナリ此故ニ國ハ其義務ヲ有シ又
其權利ヲ有スル者トス此權利ノ執行ハ即チ君
主權ト稱スル者ヲ組織シ國ハ此君主權ニ依リ
租稅ヲ徵收シ裁判ヲ行ナヒ戦争ヲ起シ其性質
ニ依リ若シクハ政治上及社會上ノ道理ニ依リ
一個人ノ所有スルヲ能ハズシテ國民總體ニ屬

スル所ノ者ニ附テハ行政及ヒ警察ノ獨權ヲ有
スル者トス君主權ニ粘着スル所ノ權理ハ君主
權同様消滅スルヲ能ハス又他ニ移轉スルヲモ
能ハサルナリ

(二六) 國ニ向テハ君主權ノ思想ノ側ニ此思想ト
全ク異ナル他ノ一思想アリ所有權ノ思想即チ
是ナリ君主タルノ點ニアラズシテ通常一箇人
ノ如ク認メラル、所ノ國ハ官有物ノ一分ニ向
テハ一箇人ト同様ナルモノニシテ統テノ所有
者ノ如キ所置ヲナシ賣買借入訴訟自談及ヒ受

領等ヲ出スヲ得ヘシ

(二七) 故ニ官有物ニ二種アリ其一ハ公有物ト名
ツクル者ニシテ國ハ是レニ對シ君主權ノ權理
ヲ執行シ其二ハ私有物若クハ單ニ國有物ト名
ツクル所ノ者ニシテ通常所有物ノ如ク國民是
ヲ所有スル者トス

(二八) 公有物ハ又所有物ノ明白ナル二種類ヲ含
ム者ニシテ其性質上商業中ニ在ル能ハサル者
ト其支用上商業外ニ置ル、者ト是レナリ所有
物、此二種類ノ何レナルモ其保存國庫ノ一般

資本ノ任タルニ在ラサレハ國ノ公有物若シク
ハ國民公有物ノ部ニ入ル能ハサルモノトス
(二九) 國ト同様縣并ニ町村モ亦所有者タルヲ得
ヘキモノトス然ラハ是等各々ノ財産ニモ(二七)ニ
於テ為シタル區別ヲ適用セサルヘカラス既チ
其一分ハ其公有物ヲ形作シ他ノ一分ハ其私有
物ヲ形作スル是ナリ(縣及ヒ町村組織ノ部ヲ參
看スヘシ)

○第二章 公有物

三。國民公有物ノ含有スル者左ノ如シ

第一項 國ノ任タル所ノ道路橋梁

第二項 一縣若シクハ一地方ノ利益ノ目的
ナラサル所ノ鐵道但シ其發二ハ人
民ニ拂下クルノ目的ナルニモセヨ
亦此拂下ノ目的ハ如何ナルモノナ
ルニモセヨ

第三項 國ノ任タル所ノ電信線

第四項 城堡ノ門戶、壁、堀及ヒ外構、市城及ヒ
軍街ニ屬スル所ノ建家(其占有權ハ
公益ノ目的ヲ以テ國ヨリ人民ニ與

ヘタルモ) 及ヒ兵場ニ生スル所ノ雜
草

第五項 海岸、海ト直接ニ交通スル所ノ沼澤
及ヒ塩池、海牧草、昆布及ヒ其他ノ海
草

海水ノ干涸ヨリ生スル海沼及ヒ海
洲ハ國ノ私有物ニ属スヘキモノト
ス最著述者ノ注意セシ如ク民法
第五百三十八條ハ千七百九十年十
一月廿二日及ヒ十二月一日ノ法律

第二條ノ旨趣ヲ害用シ誤テ前記ノ
海沼及ヒ海洲ヲ公有物ノ部ニハ入
レタルナリ將タ海ニ至テハ之レヲ
組織スル元素ノ性質タル流動体ナ
ルカ故ニ如何様ニモ之レヲ所有ス
ルヲ能ハサレハ人間全社會共有物
ノ部ニ入ル、ヨリ他ニ策ナカラシ
第六項 諸海港、諸碇泊場
第七項 江河、通航及ヒ浮木ノ諸川并ニ運輸
ヲ容易ナラシムルノ目的ヲ以テ築

造シタル人造ノ土手堤、運輸及ヒ浮
木ノ堀河并ニ其兩岸明ケ地ニ屬ス
ル所ノ土地

第八項

運輸ノ江河諸川及ヒ堀河ノ通行ノ
用ニ、渡シ船頭ノ宿泊ニ、要スル所ノ
海港、船寄セ、浮棧、土地及ヒ建家、渡船、
分流但シ通航スル能ハサル者モ通
船ノ諸川三屬スルモ、ハ此部ニ入ルニシテ、該諸川ト自由ノ交通ヲ持テ國ノ
費用ヲ以テ保存スル所ノ水管、水溜
及ヒ堀、又該諸川ニ屬スル家蓄水浴

水飲所及ヒ其他ノ者、然レモ兩岸挽
船ノ道路ニ至テハ沿岸地主ノ賦課
タルモノトス

通航モ浮木モナスヲ能ハサル諸川
ノ川底及ヒ川水ハ公有物ノ部ニ屬
スル者ナルモ、沿岸地主ニ屬スル者
ナルモ、裁ニ至ツテハ未タ議論上一定
セサルノ問題ナリ、然レモアルジエリ
トニ於テハ公有物ハ諸般ノ水流并
ニ水源ヲ網羅含有スルモノトス

第九項 僧侶、教育場、天主堂及こ其他宗教上ノ建築ニシテ其保存ノ國ノ任タル者

第十項 國立圖書館、國立書籍館其他國ノ公立書籍館ニ屬スル所ノ書籍、書キ物、原本、賞牌其他貴重ノ物品、博物館ニ於テ貯藏スル所ノ畫、肖像、及こ諸技術ニ關スル物品、并ニ國ニ於テ創設シ保存スル學術上ノ諸設置ニ於テ貯藏スル所ノ諸品

第十一項

凱陣門、紀念碑、公立水泉、等ニシテ國費ヲ以テ築造シタル者及こ其他一般ニ公益上ヨリ統テノ取引ノ外ニ置カサル可カラサル者ニシテ公益ノ用ニ供シタル統テノ物件

第三章 國有物

三

國有物ハ有形若クハ無形ナリトス

第一條 有形官有物

三二

有形官有物ハ動産不動産ヲ含有スルモノトス

大
女
宮

動産

國ノ動産ハ左ノ如シ

第一種

金剛石、寶玉、瑣球、肖像、畫、彫刻シタル石、諸家具、等ニシテ國有家具、倉庫并

ニ諸宮殿等ニ保存シアルモノニシ

テ皇室用及テ皇位用ヲ支配スル所

ノ法律ニ依リ其占有權ヲ國王ニ与

ヘタルモノ

第二種

音樂學校、音樂大學及テ其他類似ノ諸設置ニシテ國費ヲ以テ保存スル

者ノ家具道具

第三種

諸官省ノ家具道具、教正宮殿ノ家具道具、電信局、驛遞局、煙草局、火藥局、印

紙局等ノ家具道具并ニ諸器具

第四種

國ノ諸公署ノ書類并ニ簿冊類

第五種

大渡船、懲役場及テ諸囚獄本部ノ家具道具

第六種

海陸諸軍及テ公力ニ貸シ與ヘアル所ノ諸兵器并ニ國ノ諸船舶

第七種

官有地ニ於テ發覺シタル財寶但ニ發覺者ノ所有權利ニ屬スルハ引去

ルヘシ

第八種

諸官省ノ用ニ属スル製品未製品ニシテ國ノ諸造兵司、諸仕事場、諸器械場、諸製造場及ヒ諸倉庫ニ現存シ若シクハ蓄藏シアルモノ

(三四)

不動産 國ノ不動産官有物ハ統テノ不動産ヨリ組織スルモノナリ即チ林、森、土地、牧野、小作耕地、宮殿、宮城、家屋、温泉場、製塩場、塩坑等公物ノ部ニ入ラサル者之レニシテ其明細ハ千八百七十三年十二月二十九日ノ法律第二十二條

ノ旨趣ヲ奉シ調製シタル表中ニ記載セルモノトス

(三五)

前國有不動産ノ形作ヲ助ケタル者ハ左ノ如シ

第一

舊時王位ニ属セシ官有物ノ不動産ニシテ千七百九十年五月九日九月二十一日十一月二十二日及ヒ十二月一日ノ勅令ニ依リ國ニ属シタルモノ

第二

千七百九十一年四月六日ノ法律ニ依リテ廢棄セラレタル皇族ノ采地^{領物}ニ

第三 僧族、廢棄セラレタル諸組合、為メニ
 設ケタル諸設置、セン、ラザール宗教會、
 ノートル、ダーム、ジユ、モン、カルメール
 宗教會等ノ財産ニシテ千七百八十九
 年十一月二日、千七百九十一年九月二
 十六日及ヒ十月十六日、千七百九十二
 年三月二十八日及ヒ其他ノ諸法律ヲ
 以テ順次國民ノ用ニ供シタルモノ
 第四 拂^ヒ下^ケ若^クハ^ハ交^易シ^タル^ル官有物ニ
 シテ佛朗西第一共和政府第七年風月

十四日ノ法律ヲ以テ其所有權ノ變更
 ヲ廢シタルヨリ生シタル所ノ不動産
 爾來前資産ハ又左ノ者ヲ得テ増加シタリ
 第三六
 第一 千八百十年一月三十日ノ元老院議決
 ニ依リ創設シタル非常官有物ノ財産
 ニシテ千八百十八年五月十五日ノ財
 政法律第九十五條ニ依リ國有物ニ合
 併シタルモノ
 第二 舊時ノ元老院歳入ノ用ニ供シタル所
 ノ財産ニシテ千八百二十九年五月二

太
文
官

十八日、法律第七條ニ依リ國有物ニ
合併シタルモノ

第三

ヲルレイアン侯ノ采地ヲ形作セシ所
ノ財産ニシテ千八百三十二年該侯王
位ニ登リシ井國有物ニ再歸セシモノ

第四

千八百八年十二月十一日、勅令ニ依
リ創設シタル大學校歳入ノ用ニ供シ
タル所ノ財産ニシテ千八百五十年八
月七日、法律第十四條ニ依リ國有物
ニ合併シタルモノ

第五

皇有物ノ財産即チ國ニ屬スル財産ノ
内千七百九十四年五月二十六日六月
一日ノ國民議會ノ勅令、千八百十年一
月三十日ノ元老院議決、千八百十四年
十一月八日、千八百二十五年一月十五
日及ヒ千八百三十二年三月十日ノ法
律并ニ千八百五十二年十二月十二日
ノ元老院議決ノ明父ニ依リ其占有權
ヲ國王ニ與ヘタルモノ

三七

右ノ外國有不動産ノ部ニ屬スルモノ左ノ

如シ

第一

一般公益ノ用ニ供シタル不動産ニシテ其用ノ終リシモノ、譬ヘハ竅早今日ニ於テハ戦ヒノ場處ニアラサル都府城壁ノ土地及ヒ外構、民法第五百四十一條ニ於テ記載スル所ノ國道ヨリ引キ放シタル土地等

第二

干涸海沿即チ海水ノ多少永キ間占有シタル後チ其海水全ク干涸シタルヨリ水面ニ呈露シタル土地ニシテ海水

第三

ノ全ク見放シタルモノ、若シクハ工事ヲ以テ海水ヨリ奪ヒ取リタルモノ、通航ノ江河諸川中ニ形作スル所ノ島嶼、小島、川洲ニシテ民法第五百六十條ニ記スル所ノ期滿得收若クハ所有權利ノ故障ナキモノ、但シ民法第五百六十條ヨリ起ル所ノ區別ハ行フヘキモノトス

第四

國ニ於テ有報ノ趣旨ニ於テ即チ賣却及ヒ交易ニ依テ得ルトヨロ、無報ノ趣

旨ニ於テ得ルトコロ、若クハ期滿得收
ニ依テ得ルトコロノ不動産

三六 無請求及ヒ無所有ノ財産即チ殊ニ其所有
者ノ知レスシテ何レノ人ニモ屬セサルモノナ
リトノ公評アルトコロノ財産并ニ相續人ナク
死亡スル人ノ財産若クハ其相續ノ放棄ニ屬シ
タル者即チ之ヲ改言スレハ無相續遺物モ尚ホ
其性質ノ動産若クハ不動産タルニ依リ國有動
産若クハ國有不動産ノ部ニ屬スルモノトス
民法第五百三十九條ニ於テ此ノ二種ノ財産ヲ

シテ公有物財産ノ部ニ并列セシメタルハ誤リ
ナリトス此法規ノ原文ニハ此等ノ財産ハ國民
ニ屬スルモノナリト掲記セリ故ニ千八百七年
ニ於テ國民ノ語ニ代ラシムルニ公有物ノ語ヲ
以テシタルハ其當ヲ得サルモノナリト云ハサ
ルヲ得ス

第二條 無形官有物

三九 國ノ無形官有物ハ法律ノ規程ニ依リ動産
タル所ノ物ヨリ民法第五百二十七條第五百二
十八條第五百二十九條第二千七十五條參看生

産カアル権利ニシテ其一分ハ公有物ヨリ生ス
ル所ノ者ニシテ國ヨリ貸与シタル者又其他ハ
國ノ有形官有物若クハ法律上ノ諸規程ヨリ生
スル所ノ者全体ヨリ組織スルモノトス

四。

貸与

シ得ヘキ所ノ権利ハ左ノ如シ

第一 通航及ヒ浮木ノ江河諸川并ニ國ニ於
テ保存スル堀河ニ於ケル川漁ノ權

第二 渡船并ニ國ニ於テ保存スル諸橋梁通
行税ノ權

第三 公有物ノ部ニ屬スル森林并ニ水流ニ

於ケル狩獵ノ權

四

貸与

シ能ハサル所ノ権利ハ左ノ如シ

第一 重罪、輕罪若シクハ違輕罪ノ結果若シ
クハ器械トナリシ所ノ物ニシテ法律
ノ明文ヲ以テ其沒收ヲ命シタル者ハ
之ヲ沒收スルノ權

第二 罰金徵收ノ權

第三 所有者ナキ或ハ寧口所有者ノ知レサ
ル動産ニ付キ拾ヒ取り若クハ占有ノ
權

第四 無相續財產沒收ノ權

○第四章 皇有物

(四三) 第二帝國滅亡以來佛朗西ニ於テハ最早皇^ク有物ト稱スルモノアラサルナリ千八百五十二年十二月十二日ノ元老院議決ノ明文ニ依リ皇帝ノ用ニ供シタル所ノ財產ハ今日ニ在テハ其一分ハ國ノ公有物ニ屬シ其他ノ分ハ國ノ私有物ニ屬ス此皇帝ノ用ニ^供位シタル財產ノ組織ニ付テハ宜シク皇位用^{トタルラニドニシテトシ}部ヲ參看スヘシ

○第三篇 官有物事務局

○第一章 總論

(四三) 國有物ハ性來ヨリ殊別ナル二個ノ元素ヨリ成立スル所ノモノナレハ既ニ前ニ記セシ如ク一樣ノ規則ニ依リ支配サル、^一能ハサルモノナリ此元素ノ各々ニ向テハ以下ニ論記スル如ク各々異別ナル主義ヲ適用セサル可ラサルモノトス

(四四) 公有物ト國有物(國ノ私有物ヲ指スナリ)ト相關係スル^一實ニ緻密ニシテ公有物モ國有物モ皆國民ノ所有物ナリ然レモ唯其支用上ニ異

ナル所アルヨリ從テ深キ區別ヲ起スモノトス
統テノ所有者ノ如ク國モ亦事實ニ於テ官有物
ヲ所有シ此官有物ハ國ト同時ニ他人ノ所有シ
能ハサルモノナリ然レ氏其或ル部分ハ人民公
衆ノ用ニ供スヘキモノナレハ此公供ノ性質即
チ公有物ノ性質ヲ形作スル所以ノモノナリ

(四) 此二種ノ官有物ノ支用上ニ前記ノ區別アルヨリ之レヲ支配スル所ノ主義ニ於テモ自ラ一區別ヲ生セサルヲ得ス現時法律ニ於テ國有物ニ適用シタル所ノ所有權ヲ變更シ能フノ法

則ハ國ニ於テ私有物ノ點ニ於テ所有スル所ノ財產ニ限レル往時ニ於テ之レニ反シ人民公衆ノ用ニ供スル所ノ財產ニ至テハ往時ノ如ク其所有權ノ移轉シ能ハサルモノトス(民法第二千二百二十六條參看)

(四) 然ラハ此ノ所有權ノ移轉シ能ハサルノ主義ハ如何ナルモノナル乎ト問ハニニ往時此主義ノ官有物總體ニ適用セシ中少クモ主義ニ於テハ侵ス可カラサルモノナリシ如ク今日ニ於テモ侵ス可カラサルノ法則ナリト云フニハ在

ラスシテ寧口事實ヲ明言シ若シクハ証明スル
ニ止マルナリ公有物ヲ組織スル所ノ種々ノ元
素ト虽氏人民公衆ノ用ニ供セラル、丁ヲ止ム
ル中ノ國ノ通常官有物ノ部ニ入レラル、丁アル
ハ其今日ニ在ルモ亦明日ニ在ルモ此又事實免
カレサル所ナリ譬へハ一國道ニシテ其支用普
通ナルヨリ公有物ノ部ニ屬スルモノト虽氏其
道路タルヲ廢棄セシメタル中ハ其土地タル國
ノ通常官有物ニ歸スルモノトス又軍街ノ外構
ニ於ケル其市街ニシテ兵場タラシムル間ハ公

有物ノ部ニ屬スルモノト雖氏也若シ其市街ノ解
兵セラレタル中ハ之レ又國有物ニ歸スルモノ
トス

要 公有物中ヨリ前記セル所ノ引キ分ケハ若

クハ明文若クハ不文ナルモノトス此ノ引キ分
ケニシテ明白ナル命令ヨリ起リタルモノナル
中ハ明文引分トシ一官有物ニ對シ公供ノ性質
ヲ離レタル支用ヲ國ニ投テ與ヘタルノ事實ア
ル中ハ之レノミニテ不分引分ナルモノトス假
令ハ一道路ニシテ之レヲ開墾シタル中ノ如シ

大
文
官

或ハ所有権變更ヨリ公供ノ支用ヲ後來ニ能ク
セサラシムルノ事實アルキモ亦之レノミニテ
不文引分ナルモノトス

(四) 上ニ於テ論セシ如ク公有物ヲ組織スル所
ノ國有物一部分ニ就キ所有権、他ニ移轉シ能
ハサルト、主義モ國ニ於テ其之レヲ適當ナリ
ト認ムルキハ其所有権ヲ變更セシムルニ於テ
何レノ障礙ヲモ与ヘサルモノトス然レモ國ノ
明白ナル承諾ナクシテ公有物ヨリ引~~取~~クテニ
至テハ此ノ所有権、他ニ移轉シ能ハサルトノ

主義ヨリ障礙ヲ來ス所ノ者ナリ何トナレハ所
有権、他ニ移轉シ能ハサルノ原則ハ必ス其ニ
期滿得收ナキト、原則ヲ^引來スモノナレハナリ

(五) 公有物ニ屬スル一不動産ヲ國有物ノ部ニ
移轉スルトハ若クハ明文若クハ不文ナリトハ
前記セル所ノ如シ然レモ此ノ移轉ヲシテ不文
ニテモ成立スル所アラシメンニハ必ス行政上
ノ之レヲ証スル事實ヲ要スルモノトス世ノ論
者ノ主張セシ如キ一ノ單ナル黙許一ノ單ナル
無用^{ノ用云ヒサル}ニテハ充分ナリトスル能ハサル

ナリ若シ然ラサルニ於テハ期滿無得收ノ法理
ハ一ノ無益ノ語ナルニ止マルヘシ故ニ今一個
人アリ行政官ノ目下ニ於テ一軍街ニ屬スル土
地ノ一部分ヲ開墾シタルモノトセンニ此ノ開
墾者ニシテ期滿得收ノ主義ニ依リ此開墾地ノ
所有權ヲ得ルハ決シテ能ハサルモノトス然レ
氏之レニ反シ行政官ニ於テ此土地ヲシテ公有
物附屬ノ性質ヲ得セシメタル第一ノ支用ト異
ナル支用ヲ既ニ取ラシメタル後チ該開墾者ノ
之レヲ占。有セシモノナラバ期滿得收ノ主義ニ

依リ之レカ所有權ヲ得タツシナラン然ラハ論
者ハ無益ニモ必ス云ハントスヘシ行政官ノ無
用ハ事實ニ於テ之レヲ証スルカ如ク公有物ノ
該部分ニ窠^{エシ}早第一ノ支用ヲ取ラシメサルノ思
考^シアルヲ証スヘキナリト嗚呼此ノ如キノ論旨
ヲ取ル井ハ如何ナル期滿得收ト雖氏行レサル
トアラサルヘシ之レ即チ法律ノ明カニ反對ス
ルトコロナリ

○第二章 公有物ニ特別ナル規程

五。 公有物ハ種々ノ元素ヨリ組織セラレ、モ

大政官

ノナレハ其元素各々、性質ニ従リ各省ノ管理
スル所トス

五二 故ニ陸軍卿ハ軍街、土地、外構、圍堀、等兵事
ニ關スル公有物ノ管理保存ヲ主トリ海軍卿ハ
海軍ニ關スル公有物ノ管理保存ヲ主トリ工部
卿ハ地上水上等ノ通運ニ關スル公有物ノ管理
保存ヲ主トル等ノフナリトス

公有物ノ種々ナル部分ノ行政ノ詳細ニ至テハ
軍街、海軍、工部等ノ諸篇ニ就ヒテ宜シク見ル所
アルヘシ（セルグヒテユード、デフアンシト、トラウアー、ミキスト）軍用義務、混合工事等ノ諸篇ヲモ参考

スヘシ

五二 然レ氏今爰ニ於テ讀者ノ注意ヲ窺モ要ス
ル所ノモノハ公有物ノ支配ハ如何ナル人ノ掌
中ニアルモ其所有權ノ變更、其生益ノ徵收、其所
有權ノ爭論等ニ至テハ必ス官有物事務局ノ干
渉ヲ要スルモノトスル之レナリ

○第三章 國有物ニ特別ナル規程

○第一條 國有物ノ受ク可キ變更

○第一項 得收

五三 國有物ニ向テ得收ノ第一ノ根源ハ奪掠之

奪掠之

レナリトス千八百三十二年三月二日ノ法律ハ
帝國時代ノ法制ニ於テ奪掠ニ関スル得收ヨリ
組織セラル、所ノ非常官有物ノ形作ヲ向來ニ
禁止シタルヲ以テ此淵源ヨリ生スル所ノ財産
ハ該法律ニ依リ國有物ノ部ニ歸スルモノトス
故ニ國有物ハアルジェリ―國掠奪ノ後ニ於テ該
國王ノ舊政府ニ屬セシ所ノ統テノ財産ヨリ富
加シタルモノナリ

五 得收ノ此ノ非常方法ノ外ニ於テ國有物ハ
左ノ者ニ依リ増加スルモノトス

第一

寄附及ヒ遺物ニ依ル、此ノ得收ハ決シ
テ當然ナラサルモノナルハ寄附及ヒ

遺物ヲシテ其功アラシメン為メニ普

通法民法ナランカニ於テ要スル所ノ

兼引アクセテタシランハ勅令ヲ以テセサル可ラス而シ

テ此ノ允許勅令ヲ下タスノ手續ハ千

八百十七年四月二日ノ命令ニ於テ詳

細ナリトス

第二

買得ニ依ル、有報ノ得收ハ諸公署ノ利
益、為メニ示談若クハ公益、為メノ

所有権徵收ニ依リ國費ヲ以テ行フモ
ノトス
示談ヲ以テナシタル得收ニハ之ヲシ
テ其功アラシメン為メニ別段ノ法律
ヲ要セサルナリ然レモ該得收ヲナシ
タル公署ノ用ニ供シタル定額金ニシ
テ該得收代價ノ仕拂ヲナスニ不充分
ナル片之レヲ補フニ必要ナル金額ノ
下附ニハ特別ナル一法律ヲ要スルモ
ナリ

且ツ此ノ得收ハ行政上ノ手續キニ依
リ即チ府縣長官若クハ其代理者ノ前
ニ於テ或ハ公証^シノ手續ニ依リ實行ス
ルヲ得大蔵省附屬ノ官廳ノ為メニ
ナシタル得收ナル片ハ其買ヒ入レ其
定約取結其所有引キ取り等ニ關スル
諸般ノ手續ハ官有物事務局ニ於テ該
關係廳ト合議ノ上取扱フモノトス
千八百二十四年十月十一日大蔵省ノ決
議ニ依ル^ル其他諸省ノ為メニナシタル

得收ニ付ヒテハ官有物事務局ハ懇切
上ヨリ干涉スルコトアルノミニシテ此
干涉ト雖モ該關係省ヨリ其助力ヲ請
求スルモ限ルモノトス

第三 國有物ノ損失トナル如ク國有物ノ利
益トナル所ノ期滿得收ニ依ル(民法第
二千二百二十七條參看)

○第二項 所有權ノ變更

五五 國ハ其私有物ヲ組織スル所ノ財産ヲ賣却
スルヲ得而シテ此賣却ハ一般ノ規程ニ依

レハ公賣ノ手續ニ依リ又特別ニ豫定シタル或
ル取除ノ場合ニ於テハ示談ノ手續ニ依ルモノ
トス

五六 公賣ニ於テ、賣却ハ其不動産ノ價格百萬
佛ヲ超過セサル以上ハ特別ノ一法律ヲ要セス
シテ之ヲ行フヲ得ヘシ(千八百六十四年六月一
日ノ法律參看)然レモ其價格百萬佛ヲ超過スル
中ハ一法律ヲ要スルモノトス

五七 所有權ノ變更ニシテ示談ヲ以テナシ得ヘ
キ場合左ノ如シ

第一 沼澤海上干涸海沼、築堤ドワー權、江河諸川并
 二急流中ニ生スル所ノ干涸土地、川洲、
 泥地等ニシテ公有物ヲ形作セントス
 ル者ニ就テノ片（千八百七十七年九月十六
 日、法律第四十一條參看）

第二 沿道地主ニ於テ道路ノ一部分ヲ其所
 有物ニ合シ以テ道路ニ進ミ出ル、先
 許ヲ得タル（千八百七十七年九月十六日
 法律第五十三條參看）

第三 村道ノ圍取リノ内ニ含有スル國有地

ニ関スル片（千八百三十六年五月廿一
 日、法律第十五條、第十六條以下參看）

第四 一國有物ニシテ一縣、一邑若クハ工事
（ピエアツク）許可ヲ得タル一會社ノ利益ノ為メ
 公益ノ趣旨ニ依リ其所有權ヲ徵收サ
 レタル片（千八百四十一年五月三日ノ
 法律第十三條及、第二十六條參看）

第五 國ニ於テ所有權ヲ徵收シタル土地ニ
 シテ之ヲ得收シタル目的ノ工事ニ用
 ヒラレザル片舊所有者ヨリ其所有權

太
 收
 官

ノ返却ヲ請求シタル片(千八百四十一年ノ法律第六十條及ヒ第六十一條參看)

第六 廢棄ニ屬シタル地上若クハ川上ノ道路ノ一部分ヨリ生スル土地ニシテ沿道地主ヨリ其譲与ヲ請求シタル片(千八百四十二年五月廿四日ノ法律第三條參看)

第七 國ニ屬スル牆壁ノミトアイヤニステイ兩持チニ関スル片(民法第六百六十一條參看)

五六

國有物賣却ノ公賣タリ示談タルニ係ハラス統^スノ豫備ノ手續、價格ノ評定、公賣手續書ノ編纂、壁上ノ觸紙等ニ関スル一切ノ事ハ此公賣ヲ自ラ總裁スルカ又ハ郡區長若クハ不動産^ノ所在スル所ノ邑長ヲ以テ代理總裁セシムル所ノ府知事縣令ノ認可ヲ得テ官有物事務局之ヲ取扱フモノトス此代理總裁ノ件ハ公賣不動産ノ價格五百佛ヲ超過スル片ハ該當卿ヨリノ認可ヲ要スルモノニシテ官有物事務局ハ常ニ其府縣ノ主管ヂレクトル若クハ其代理ヲ以テ公賣ノ場所ニ

立合フモノトス

○第三項 交易

(五九) 同時ニ賣却シ又得收スルノ方法ハ交易之レナリトス而シテ交易ハ無論所有權ノ變更ヲ來タスモノナルカ故ニ之レヲ實施センニハ必ス一法律ニ依ラサルヲ得ス然レモ一新道創設ノ為メニ國ニ必要ナル財産ノ所有者ト廢棄ニ屬シタル道路ノ土地ノ所有者ナル國トノ間ニ行フヘキ交易ニ付テハ一取り除ケテ許シタルノ場合ナリトス(千八百三十六年五月廿日ノ法

律第四條參看

(六) 交易ヲ行ハンニハ先ツ伺書ヲ大蔵卿ニ

差出し其允許ヲ得テ始メテ之レヲ行フヲ得ヘキモノニシテ此伺書ニハ鑑^{ニキスナルケトス}定人ノ報告ヲ添ヘ該關係府知事縣令官有物事務局及ヒ恭議院ニ通牒スルモノトス而シテ該交易ノ執行ニ至テハ千八百七十七年十二月十二日ノ規則命令中ニ記載スル所ノ手續ヲ履行スルモノトス

○第二條 國有物ノ支配

○第一項 國有物ニ関スル事務ヲ主

トル官吏

六一 陸軍ニ関スル國有物ヲ除キ其他國ニ屬スル諸般ノ財産ノ管督支配及ヒ保存ハ專ラ大藏卿ノ職掌ニ屬スルモノニシテ其管理其職權ニ屬スル所ノ補輔官吏之レヲ擔當スルモノトス故ニ國有物及ヒ山林ノ總長ノ如キハ大藏卿ノ補輔官吏ナリ此等總長ノ下ニ屬スル所ノ官吏モ亦各府縣ニ於テ各郡區ニ於テ府知事縣令ノ補輔官吏ナルモノニシテ府知事縣令モ亦此事ニ就ラハ大藏卿ノ官吏ニ屬スルモノトス即チ

府知事縣令ノ補輔官吏ハ國有物長山林長等之レナリ

六二 國有物財産ノ管督及ヒ支配ニ関スル下ニ就キ癸議ノ權ハ重モニ國有物長ニ屬スルモノニシテ府知事縣令ハ單ニ之レカ管理ヲナスニ止マルモノトス然レモ國有物長ト府知事縣令トノ間ニ於テ其議ノ合ハサル如キ統ヘテノ場合ニ於テハ其議件ハ府知事縣令之レヲ大藏卿ニ具申シ其監定ヲ仰クヘキモノトス

六三 防禦ノ需用ヨリシテ陸軍國有物ニ就テハ

甚々洪^ニナル權利ヲ陸軍卿ニ与ヘシメタリ而シテ陸軍國有物ノ支配ハ陸軍官吏ノ擔任ニシテ千七百九十一年七月八日十日ノ法律ニ依リ執行スルモノナリ然レ^レ氏今日ニ在テハ陸軍ニ關スル土地及^ニ家屋ノ貸附又此ノ貸附ノ改約ハ皆官有物事務局ノ一官吏ノ立合^ニ於テ之レヲ行フヲ要スルモノニシテ該事務局ノ各主任官ニ於テ該貸家料及^ニ貸地料等ヲ徵收スルモノトス

六四

故ニ官有物事務局ノ職掌ハ物質上ノ支配

ニ關スル統一テノ者ヨリ成立スルモノニシテ該事務局ハ國ノ資産^{ツラ}ニ屬スヘキ種々ノ金額、貸地料、賣却代金ヲ徵收シ、動産ノ賣却ヲ履行セシメ、貸附約定、賣却約定、交易約定、公賣手續書ヲ調製シ、公署ノ用ニ供ヘタル供ヘザルニ係ハラサ^ル國有物ノ所有權ニ關スル統一テノ訴訟ノ取調ヘ^テ府知事縣令ト協議ノ上整理シ裁判々決^ス全々キ執行迄之レカ取扱ヲナスヘキモノトス該事務局ハ又國ノ名ヲ以テ國有物ノ増有^{ハクク}スル財産ノ所有權ヲ受取ルモノナリ

○第二項 公署ノ用ニ國有物財産ノ

支用

(六五) 國有物ノ財産ハ或ハ公署ノ用ニ供シ或ハ公署ノ用ニ供セサルヲアリトス千八百五十年五月十五日ノ法律第四條ヲ以テ一公署ノ用ニ一國有不動産ノ支用ハ必ス一法律ヲ以テセサル可カラサルモノナルヲ定メタリ然レモ公署ノ需用ハ屢々事至急ヲ要スルヲアルト又公署ノ用ニ國有物ヲ支用スルモ其不動産ノ國有物タル性質ヲ決シテ變更セシメサルトノ兩主

義ニ依リ該法規ハ千八百五十二年三月廿四日ノ勅令ヲ以テ取消シタリ千八百五十年五月十五日ノ法律ヲ前記ノ如ク單ニ全廢シタルヨリ該法律ノ前ニ此ノ事ヲ規程セシ所ノ千八百三十三年六月十四日ノ規則命令ヲ蕪生セシメタリ從テ國ニ屬スル一不動産ヲ國ノ一公署ノ用ニ供スルヲ以テ目的トスルノ勅令ハ今日ニ在テハ其支用ヲ請求スル所ノ該當卿ト大藏卿トノ相談ヨリ成立スルモノトス此勅令ニハ必ス大藏卿ノ意見ヲ記載シタルモノニシテ不動産

ノ支用ヲ得タル公署ノ該當卿、認印コトシ、シニヤヲ要ス而シテ此ノ勅令ハ又法例彙纂中ニ記入スヘキモノトス

(六六) 此ノ如ク公署ノ用ニ供シタル國有財産ノ支配ニ関スル一切ノ事ハ之レヲ支用スル公署ノ任タリトス然レモ其所有權ニ関スルノ~~議~~訟并ニ該不動産ヨリ生スル利益ノ徵收等ニ至テハ常ニ官有物事務局ノ任ナリ

○第三項 定期貸渡約定

(六七) 公署ノ用ニ供セサル所ノ國有財産ニシテ

其所有權ヲ變更セシムルニモ及ハスト思考セル、所ノ者ハ千七百九十年十月廿八日ノ勅令第二篇第一條ニ於テ定メタル一般ノ主義ニ依リ支配サル、者トス而シテ此ノ主義ハ諸行政議會(今日ノ參議院、各省顧問議會、府縣會、郡區會、町村會等、如キモノ)ニ命スルニ統ヘテノ國有財産并ニ無形ノ權利迄モ皆其貸附方ヲ行フノ義務ヲ以テシタリ此ノ主義ハ常ニ遵奉セラル、モノナリト虽モ又自ラ多少必要ナル斟酌ヲ用ヒサルヲ得サリキ先ツ無形ノ權利中ニモ其貸

附ヲ行フテ能ハサルモ、アルハ既ニ前記セル
所ナリ其他割リ能ク貸附ルテ能ハサル所ノ者
ハ官有物事務局ヲシテ直接ニ支配セシムル
ヲ允許スル所ノ千七百九十一年八月十九日ノ
勅令ヨリ起ル甚々弘大ナル取除ケハ官有物事
務局ヲシテ千七百九十年ノ勅令ノ過激ナル法
規ヲ屢々違レシムルナリ

六八 府知事縣令ハ首府ノ郡區ニ於テ、郡區長ハ
其各自ノ郡區ニ於テ、若クハ其代理セシムル所
ノ邑長ハ、國ノ名ニ於テ其各行政區域内ニ存在

スル不動産ノ貸渡約定書ヲ受取ルモノトス此
貸渡約定ヲナスハ國有物徴收吏ノ任ニシテ一
般ノ程規ニ依レハ司法公賣及ヒ公賣ニ依ルモ
ノトス然レモ司法公賣ニシテ其目的ヲ達セサ
ルカ若クハ公衆ニ向テ公賣スル能ハサル特別
ノ場合アル片ハ示談貸渡方ヲ該當卿ニ於テ許
可スルヲ得可ク且ツ該當卿ハ府知事縣令ニ与
フルニ其貸渡料五百佛ヲ超過セサル以上ハ之
レヲ處置スルノ權ヲ以テセツ

○第四篇 官有物ニ関スル訴訟及ヒ審判

○第一章 所管

六九。官有物ニ関スルコトニ於テハ國ニ歸スヘキ
收入^{レハエニ}若クハ資本ノ徵收ヲ以テ目的トスル所ノ
審判ト官有物ニ屬スル動産不動産ノ所有權ニ
関スル所ノ審判トノ區別ヲ要スルモノトス此
區別ヲ要スルノ理由ハ兩種ノ審判ニ於テ其訴
訟ノ手續キニ自ラ異ナル所アル之レナリ

七〇。行政官及ヒ司法官ノ所管ヲ定ムル所ノ法
律規則ハ官有物ニ関シテ起ル所ノ訟事ニ付キ
今一種ノ區別ヲ定メタリ即チ該訟事ノ一部分

ニシテ行政官ノ所管ニ屬スルモノハ行政審判
ヲ組織スルモノトシ其他ノ部分ニシテ司法官
ノ所管ニ屬スルモノハ司法審判ヲ形作スルモ
ノトス

七一。行政所管ト司法所管トノ分離ハ千七百九
十年八月十六日廿四日ノ法律第二篇第十三條
ニ於テ定メタルモノニシテ爾來ノ諸法律就中
千七百九十一年九月三日ノ憲法^{第三編}第五章第一條
及ヒ第三條并ニ佛朗西第一共和政府第三年菓
月十六日ノ法律中ニ再記スルモノトス

七二 行政裁判權ハ國カ君主タルノ點ニ於テ行
フ所ノ權利ニ付キ起ル所ノ統ヘテノ訟事ヲ取
リ扱ヒ司法裁判權ハ之レニ及シ國カ通常一。個
人トシテ行フ所ノ權利ニ付キ生スル所ノ統テ
ノ訟事ヲ取扱フモノトス

七三 所管ノ一般ノ主義ハ此ノ如シ此主義ヲ完
全ニ了解シ且特別ナル諸法律ヨリ起ル巨多ノ
取除ケナカリシナラハ諸訟事ヲシテ其之レヲ
所管スヘキ裁判權ニ附セシムルハ容易ナルヲ
ナラシム

○第一條 行政所管

七四 佛朗西第一共和政府第八年兩月二十八日
ノ法律ハ司法權ヲ除キ行政權ノ所管ニ屬スル
訟事ノ所件ヲ決定シタリ

七五 談法律ノ第四條ニ依レハ府縣顧問會ハ國
民官有物ノ訟事ヲ裁判スルモノトス

七六 千七百八十九年ノ後ニ於テ僧族ノ財産并
ニ外國移住者及ヒ國事犯罪者ヨリ沒收シタル
財産ノ所有權變更ハ巨多ノ賣却約定ヲ為スヲ
要シタリキ此ノ如キ賣却約定ノ執行ニハ必ス

行政官

種々ノ困難ヲ起スヘキモノニシテ且事實ニ於
テモ舊所有者ヨリノ請求（イフ）所有權ノ淵源ヲ定ム
ルニ必要ナル書類ヲ常ニ持タサリシ所ノ行政
官ノ錯誤等ニ基キタル數限リ無キノ困難ヲ引
キ起シタリ此時ニ當テ此等困難ノ處置ヲ司法
裁判所ニ任スルハ該裁判所ニ於テ諸般ノ事
件ヲ觀察スルニ純粹ナル法理ノ點ニ於テスル
ノ甚タシキ偏キアルヨリ弊害少ナカラサルハ
政府自身ニ屬スル一郡ニ任セサル可カラサル
ヘシト認メラレタリ而シテ此等ノ賣却ハ重モ

ニ地方行政官吏ノ手ニ成リタルモノナレハ是
レ即チ府縣顧問會ノ所管權利ノ起リタル所以
ナリ

七七 前記セル如ク政事上ノ場合ヨリ起リタル

府縣顧問會ノ此職掌ハ後ニ於テ記スヘキ不動
産ニ関スル諸般事件ノ司法所管ノ部ニ屬スヘ
キノ主義ニ對シ一抵觸ヲ組織セシモノナリ而
シテ此ノ抵觸ハ此ノ場合ト共ニ消滅スヘキニ
似タリ然レ氏此ニ反シ今日ニ在テハ所有權ノ
變更ハ如何ナル時ニ於テ為サレタルモ府縣顧

問會ニ於テ左ノ二個ノ職掌ヲ有スルハ確乎不
變ノ主義ナリトス

其一

行政官ヨリ出テタル賣却ノ行為ニシ

テ其有功ナル裁否裁ヲ審査スルヲ即

チ賣却手續ニ於テ不都合ナル所ナキ

裁否裁其賣却ハ禁止セラレサルモノ

ナル裁否裁又ハ犯買ヲナセルモノナ

ラサル裁否裁ヲ驗査スルヲ

其二

此ノ行為ヲ説明シ其含有スル所ノ諸

品ヲ公言スルヲ即チ之レヲ改言スレ

ハ此ノ行為ノ關係ト廣サトヲ知ラシ
ムルヲ

七八

此ノ説明ノ權ハ唯司法公賣ノ行為ニ

適用スルノミナラス尚ホ又此ノ公賣ノ用意ヲ

ナセシ所ノ統ヘテノ行為ニシテ此ノ公賣ニ関

係アルモノニハ皆適用スヘキモノトス譬ヘハ

評價人ノ報告壁上ノ觸書等賣却ノ行為ニ附屬

スル所ノ統ヘテノ者迄ヒナリ此ノ法

七九

行政官ニハ賣却ノ行為ヲ説明スルノ權ア

リト虽氏司法裁判所ニハ此ノ行為ヲ實行シ説

行政官

明ノ更ニ無キ片、不充分ナル片若クハ不相當ナル片ハ之レニ代ルニ先得^{ハク}ノ權利、定期貸渡約定、吟味^{アウケイ}場所^{トコロ}ノ検査^{ケンサ}所有^{ソウヨウ}スル^ルノ權利ニ關スル行為及ヒ普通法ノ主義ノ適用ヲ以テシ國民官有物賣却ノ行為ニ説明ノ更ニ無キ片ハ先得ノ權利、普通法ノ法理若クハ地方習慣ノ適用ニ依ラサレハ決定スル^ルヲ能ハサル所ノ諸般ノ事件ヲ決定スルノ權ヨリ之レナキモノトス

八〇 行政上ノ行為ヲ説明スルノ權ヲ司法官ニ於テ所有セシメサル^ルハ國安維持ノ一方法ニ

シテ訴訟ノ如何ナル者ナルニモセヨ司法官ニ於テ此權ヲ取ル^ルハ許ス可^クヲサル^ルノミナラス若シ此説明ヲ要スル片ハ司法官當然之レヲ行政官ニ請求スヘキモノトス

八一 故ニ司法裁判所ノ前ニ於テ行政行為ノ意味ニ付キ爭論ノ起リタル片ハ之レカ説明ヲ得セシメン^ル為メ兩造ヲ行政官ノ前ニ送遣セサルヲ得ス然レ^ル氏司法官ニ於テ一行政行為ニシテ其意味ハ明白ニ且確實ナリト認ムル片ハ兩造ヨリ二個^ニノ意味若クハ曖昧ノ意味アルト申立

ル丁アルモ夫等ニ係ハラス之レカ適用ヲ為ス
ニ於テハ決シテ其權ヲ超ヘサルモノトス然レ
氏若シ國ノ代理者ニシテ一説明ヲ要スハシト
思考スルニ於テハ司法裁判官ハ此説明ヲ行政
官ノ前ニ送遣スヘキナレ氏該事件ニ付テハ裁
判權ハ尚ホ司法官ノ掌握スル所ナリ

(三) 行政行為ノ説明ノ事ハ司法官ノ所管外ナ
ルノ主義ノ適用ト且行政行為ノ説明ヲ為スハ
元ト之ヲ癸ユセシ行政官ノ職務ニ屬スルモノ
ナル一般ノ規程ニ對スル一抵觸トノ兩點ヨリ

シテ府縣顧問會ハ國民官有物ノ賣却行為ヲ說
明スルモノトス

(三) 佛朗西第一共和政府第七年風月十四日ノ
法律第十四條ハ國有財産ノ得收者ト旧皇有物

ノ願下ケ人年限ヲ定メ皇有物ノ幾分ヲ願下ル者ニシテ此法律ヲ

遵奉シタル者トヲ同様ノ者トナセリ故ニハ札
願下ケ人ニ落札シタル賣却ノ其功アル哉否哉
ヲ審査スルハ府縣顧問會ノ職掌ニ屬スルモノ
トス然レ氏更ニ拂下ケノ分ニ屬セサル所ノ國
有物ニシテ從テ佛朗西第一共和政府第七年風

月十四日ノ法律ニ於テ余スル如ク有功ヴァラフルマンニ其所
有権ヲ變更スルヲ能ハサルモノ、該賣却中ニ
含有シタルノ趣旨ヨリシテ其有功ヴァラフルマンナル裁ノ點
ニ攻撃ヲ受ルルハ先ツ兩造ノ間ニ於テ預シメ
判決スヘキノ一議件即チ拂ヒ下ケノ範圍ハ如
何アリシ裁ヲ知ルノ議件起ルベシ此ノ議件ニ
付テハ前法律第二十七條ニ依リ司法裁判所唯
リ之ヲ處断スルヲ得ヘキナリ而シテ此ノ處断
ハ府縣顧問會ニ於テ其職務ニ屬スルトニ関カ
ラサルノ先キニ於テスルヲ要スルモノトス

八四 今前論スル所ヲ約言スレハ法理ニ於テモ
法学ニ於テモ國ヨリ賣却シタル不動産ニ什人
民ト國トノ間ニ起ル所ノ爭事ヲ審判スルハ司
法裁判所ノ所管ニ屬スヘキト、所有権ノ變更ヨ
リ生スル所ノ説明ノ議件ハ行政裁判ノ所管ニ
屬スヘキト、區別ヲ定ムルニ於テハ異論ナキ
モノナリト云ハサルヲ得ス

八五 立法官ノ助カニ依リ若クハ之レニ依ラス
シテ成リタル讓与ノ事ニ於テモ前同様ノ區別
ヲ要スルモノトス行政行為ノ説明ニ関スル事

ハ行政裁判之ヲ取り扱ヒ之ニ反シ説明ニ於テ
何レノ疑義モナキ所ノ該行政行為ノ適用ニ関
スル状又ハ譲与ノ行為ニ基クテナクシテ他
ノ権利若クハ普通法ノ主義ニ基キタル人民若
クハ譲与引請人ヨリ來タル所ノ詐願ニ関スル
状ノ其ハ司法裁判所ノ所管ニ属スルモノトス
八六 然レ氏賣却ノ行為ヲ説明スルノ權ハ府縣
顧問會ニ属スヘシト虽氏譲与行為ノ説明并ニ
監定ニ至テハ君主ヨリ來タル行為ニ関スル統
ヘテノ困難ノ直接及ヒ獨專裁判官タル主義ノ
エキスツリニシテ

參議院ハ直ニ持テ出スモノトス

八七 交易ノ事ニ於テハ交易ヲ認可スル法律ノ
發布前ニ関スル純粹ナル行政行為譬ハ行政
官^吏ニ與ヘタル交易ヲ兼諾スルノ權等ノ場合
ヨリ起ル所ノ争事ハ一般ニ行政裁判ノ前ニ於
テ攻撃セサルヲ得サルナリ交易法律ヲ以テ認
可シタル約定書ニ付キ起ル所ノ争事ニ至テハ
法学ハ所有權變更ノ事ニ於テ其遵奉スル所ノ
主義ニ從ハシニハ其審判ヲ行政裁判所ニ属セ
シメサル可ラサルナリ參議院ニ於テハ既ニ此

ニ思考スル所アリシカ如シ(千八百三十七年四月廿三日ノ決定參看)然レ氏單ナル一証明ナラテハ含有セサル所ノ千八百三十七年ノ決定ヨリ窺モ洪ヒナル権カヲ有シ且其理由ヲ記載シタル他ノ数多ノ決議ハ交易約定ヨリ生スル所ノ争事ヲ以テ司法裁判所ニ属セシメタリ然レ氏爰ニ於テ尚ホ又一異論ノ在ルアリテ時トシテハ司法裁判所ハ監定ハ兩造ノ望ミノ説明ニ限ラレ時トシテハ約定ノ決定迄モ其監定ニ任スルトアリトス

(八) 公益ノ工事ニ供スヘキ土地得收ノ約規ヲ示談ニテ定メン為メ行政官ト人民トノ間ニ取リ結ビタル約定ノ事ニ於テハ此ノ事件ヨリ沸起スル所ノ争事ハ該公益ノ工事ヨリ起ル所ノ人民所有権ノ徵收(買ヒ上ケノ)ヨリ生スル争事ノ司法裁判所ニ属スルカ如ク之レ又該裁判所ニ属スルトナルハ勿論ノ事ニシテ疑ヒノ外カノ事ナリトス然レ氏統ハテ君主ノ行為ニ必要ナリトスル所ノ説明ニ至テハ前ノ如ク是レ又常ニ行政官ノ職務ニ属スルモノナリ

八九 佛朗西第一共和政府第八年花月三日ノ法律第二條并ニ千八百二十三年六月十八日ノ命令第二十二條ハ錄泉ノ所有權ニ付キ國ト邑トノ間ニ湧出スル所ノ争事ハ府縣顧問會ニ屬セシメタリ然レ氏此ノ取除ケノ所管ハ千八百五十六年七月十四日ノ法律第二十條ヲ以テ取消シ更ニ該法律ヲ以テ此所有權ノ議件ハ司法官ニ復歸セシメタリ

九〇 行政上ノ定期貸渡約定即チ行政政府ニシテ或ハ貸渡人或ハ借受人トシテ結約者ノ一人ト

ナル所ノ定期貸渡約定ニ關スル丁ニ付テハ宜ク定期貸渡約定ノ篇ニ就テ見ル所アルヘシ唯爰ニ於テハ主義ニ於テハ國民官有物ノ定期貸渡約定ニシテ官有物ニ關スル行政上ノ訴訟ヲ來タストアルハ法律ニ於テ殊更ニ其審判ヲ行政官ニ屬セシムル所ノ場合ノミニ限ルモノナル丁ヲ單ニ注意セシムルニ止ル可シ

九一 行政上ノ訟事ニ付キ審判シタル府縣顧問會ノ決定ノ上告ハ參議院唯リ之レヲ審判スルノ權アルヲ今爰ニ記載シ終レハ以テ行政所

管ノ部ヲ畢リタルモノトス

○第二條 司法所管

九二 非常ニシテ且取除ケル裁判権ナル行政裁判権ニ附与シタルノ職掌ハ常時裁判所ノ裁判権ヨリ分裂シタル者ノ如キナリ將々常時裁判所ニ就テハ^{フクト、ユキリ、テイ}公益ノ道理ヨリシテ或ル事件ニ付テハ其審判権ヲ引キ上ケタルモノトス而シテ常時裁判所ノ裁判権ヨリ明白ニ取除ケタル統ヘテノ者ハ既ニ前記シタルヲ以テ自ラ其殘餘スル所ノ者ヲモ指示シタルモノト云フヘシ

九三

ルモノトス

故ニ司法裁判所ハ就中左ノ事件ヲ審判ス

第一 所有スルノニ関スルノ訴訟但此ノ訴訟ハ私有スルノ能フヘキ不動産即チ所有権ノ變更モ期滿得收モナキ公有物ニ屬セサル所ノ不動産ニ関スル時ニ限ルモノトス何トナレハ公有物ニ関スルモノハ之ヲ所有スルノアルモ

其所有タル必ス當座^{ツレケル}ル者ニ於テ許シタ^ルニテモ勝手ニ之ヲ引ノ性質ヲ帶フル

大
女
宮

者ナレハ所有スルノ事ニ関スルノ訴訟ヲ起スノ基ヒトナル能ハサレハナリ
第二 動産不動産ノ所有權ニ関スルノ事件、但其事件ニシテ公益ニ関スルカ或ハ
行政府ニ於テ公有物ノ部ニ屬スルモ
ノナリト主張スル所ノ不動産ニ関ス
ルカノ時ニ於テモ

第三 境界ノ取極メ及ヒ期滿得收ニ関スルノ事件

第四 不動産^{セルゲルチエリ}犧牲供、抵當權、債主先收權^{レイエール}等實權

ニ関スルノ事件、但公益ノ為メナル不動産犧牲、成立支用ハ行政府ノ獨專管理ニ任シタル利益ニ屬スルモノニシテ公金ヲ取扱フ會計官吏ノ財産ニ對スル國庫ノ抵當權及ヒ先收權ニ就テハ司法裁判所ハ其登記ノ有功并ニ順序ニ関スルノミヲ審判スルモノトス

第五 定期貸渡約定ノ執行ニ関スル困難、但シ(九〇)及ヒ定期貸渡約定ノ項ニ於テ掲

太
改
官

記シタル取除ヲ除ク

第六 國ニ於テ没收シタル遺物之レヲ總記
スレハ國有物ノ會有スル無形ノ統テ
ノ權利ニ関シ生スル所ノ諸争事

○第二章 官有物ニ関スル訟事中國ノ代
理タルヘキ官吏

九四 以上六九ニ於テ公有物ノ部ニ屬スル動産不
動産ノ所有權ニ関スル所ノ審判ト國ニ歸スヘ
キ收額若クハ資本ノ徵收ヲ以テ目的トスル所
ノ審判トヲ區別セサル可カラサルヲ述ヘタ

リ

○第一條 所有權ニ関スル訟事審判

九五 千七百九十年十月二十八日十一月五日千

七百九十一年三月十五日二十七日佛朗西第一
共和政府第四年雪月十九日ノ法律并ニ民事訟
訟法第六十九條ノ明文ニ依リ官有物ニ関スル
所有權ノ議件ニ就テノ訟事ハ行政府ニ於テ其
原告タル被告タルニ係ハラス府知事縣令之ヲ
擔任スルモノニシテ府知事縣令ハ此ノ事ニ於
テハ旧王國時代各州官有物檢事ニ代リタルモ

太
收
官

ノトス

九六 然レ氏千八百三十八年五月六日ノ命令ノ
緒言ニ記スル如ク千七百九十一年八月十九日
九月十日^二日ノ法律ヲ以テ官有物事務局ニ附与
シタル保存ノ職權ハ此等種類ノ訴訟ハ公署ノ
用ニ供シタル不動産ニ関スルトナル哉否哉ニ
係ハラス其必用トスル所ノ訴訟法諸証事^{アツト}ニハ
必ス該事務局ノ直接ナル助力ヲ要求セシムル
モノトス

九七

該命令發布ノ前ニ係ル千八百三十四年七

月三日ノ大藏卿ノ決定ハ既ニ官有物ニ関スル
司法訴訟ニ於テ國ノ保護ニ尽カスルヲ以テ任
トスル官吏ニ与ヘタル義務ヲ定メタリ該決定
第六條ノ法規ニ依レハ國ノ利益ヲ謀ル所ノ訴
訟ヲ始メシニハ先ツ府知事縣令ノ請求及ヒ官
有物長ノ訴訟并ニ請求ニ依リ被告ニ呼出^{アツト}状ヲ
送致スルヲ要スルモノトシ第七條ノ法規ニ依
レハ一訴訟ニ於テ被告タル府知事縣令ニシテ
呼出状ヲ受クルハ其呼出状ヲ官有物長ニ送
ルモノニシテ官有物長ハ第八條ノ明文ニ依リ

直々ニ此レカ答弁書ヲ調製シ之レヲ府知事縣
令ニ送り其認可ヲ乞フモノトシ第二十條ノ法
規ニ依レハ森林事務局若クハ其他諸公署ノ官
吏ヲシテ該事務局ノ支配スル裁若クハ該公署
ノ一ニ於テ占有スル裁ノ官有物ニ関スル訴訟
ニ於テハ國ノ權利ノ保護ニ盡カセシムルモノ
トス

九八 千八百三十八年五月六日ノ命令ハ前諸法
規ヲ法定スルニ左ノ文言ヲ以テシタリ
公署ノ用ニ供シタル供セサルニ係ハラサル國有

物ノ所有權ニ関スル諸訴訟ノ取調ハ其裁判及
決定ノ全キ執行迄在府縣官有物長府知事縣
令ト協議ノ上大藏卿ノ監督ヲ受ケ之レヲ調製
シ之レヲ取扱フモノトス在府縣各省分派諸公
署ノ長ハ各其關係アルトニ付テハ其所有スル
所ノ諸証事諸圖画及ヒ諸書類ヲ官有物長ニ送
致センタメ之レヲ府知事縣令ニ送り以テ國ノ
權利ノ保護ニ盡カセサル可ラスシテ是等諸書
類ニハ各其注意并ニ意見ヲ附スヘキモノトス

九九

佛朗西第一共和政府第八年兩月二十八日

法律ハ又府知事縣令ヲシテ其府縣ノ權利ヲ
實行セシムルモノニシテ國ト府縣トノ間ニ訟
事ノ起ルルハ府縣顧問會家旧在職ノ會負其府
縣ノ名ヲ以テ訴訟ヲ起コシ若クハ之レヲ保護
スルノ任アルモノトス

一〇〇 一 裁判決定ニシテ其諸法規ニ於テハ國ノ
名ヲ以テ呈出シタル結願ト一様ナルル即チ國
ノ勝公事トナリタルル中敵手ニ於テ之レヲ上告
スルルハ官有物總長ハ預シメ大藏卿ノ許可ヲ
得ルヲ要セスシテ財產所在府縣ノ知事縣令ノ

名ヲ以テ大審院ニ於キ其權利ヲ保護セシムル
モノトス

一〇一 一 裁判決定ニシテ國ノ利益ニ損害ヲ与フ
ルル即チ國ノ負公事トナリタルル中ハ大藏卿ハ
官有物事務局ト協議ノ上之ヲ上告スル共又ハ
官有物ヲシテ其判決ニ服從セシムル共ヲ決シ
若シ之レヲ上告スルニ於テハ官有物總長財產
所在府縣ノ知事縣令ノ名ヲ以テ之レヲ上告ス
ルモノトス

一〇二 官有物ニ關スル訴訟ノ實行ハ其所管ノ常

時裁判所ニ在ラスシテ府縣顧問會ニ屬スル片
ニ於ケルモ尚ホ府知事縣令ノ職務ニ屬スルモ
ノトス然レ氏其所管ノ參議院ニ屬スル片ハ大
藏卿國ノ名ヲ以テ之レヲ取扱フモノトス

一〇三 陸軍官有物ノ保存ヲハ陸軍卿ノ職務ニ屬
スル所ノ千七百九十一年七月十日ノ法律ニ依
リ陸軍卿ハ常ニ該官有物ニ関スル所ノ訴訟審
判ヲ檢査シ之レヲ取扱ハシムルノ權ヲ自貯シ
タリ故ニ官有物掛リ吏負ハ此ノ訴訟ニハ更ニ
關係セサルモノトス 千八百三十四年七月三日

ノ決定及ヒ千八百三十八年五月六日ノ命令參
看然レ氏國ハ官有物及ヒ官有物ニ関スル權利
ノ事件ニ於テハ府知事縣令ヲ以テ代理セシム
ルヲ定ムル所ノ民事訴訟法第六十九條ノ法
規ハ陸軍官有物ニ関スル事件ニ於テモ尚ホ遵
奉セサル可ラサルニ似タリ

○第二條 納金徵收ニ関スル訴訟審判

一〇四 官有物事務局ノ吏員ハ千七百九十一年三
月二十日ノ法律ニ依リ官有物及ヒ國民財産ニ
屬スル所ノ封建權利其他諸無形ノ權利并ニ此

等諸權ノ買戻約定ノ代價及定期貸渡ノ約定
ノ代價等ヲ徵收スルノ任ヲ受ケ且又千七百九
十一年九月十二日ノ法律ニ依リ國民官有物ノ
入額徵收ノ任ヲモ受ケタリ又佛朗西第一共和
政府第九年風月二十七日ノ法律第十七條ノ法
規ニ依レハ官有物事務局ニ委任シタル統テノ
徵收ニ関スル訴訟事件ハ兩造ノ對審モナク代
訴人ノ手續モナク唯單ナル請求書ヲ被告ニ示
スニ止マリ以テ之レカ審判ヲ取扱フモノトス
而シテ官有物事務局ニ委任シタル統テノ徵收

トハ佛朗西第一共和政府第十一年兩月十三日
ノ大審院決定ノ文言ニ依レハ官有物事務局ニ
於テ徵收スル官有物ノ入額及資本并ニ諸種
ノ稅(登記稅、記錄稅、抵當稅等)ニシテ其徵收方ヲ
該事務局ニ委任シタル者之レナリ

一〇五 前論スル所ニ依レハ此ノ事件ニ於テノ訴
訟審判ノ官有物事務局ニ於テ府知事縣令ノ助
カヲ請ハス直チニ該局ノ名ヲ以テ之ヲ取扱フ
モノトス然レモ權利ノ點若クハ訴訟ノ據テ起
ル證據ノ正否ノ點ニ於テ爭事ノ起ル片ハ是レ

府知事縣令ノ干涉スヘキモノニシテ官有物ニ
關スル訴訟法ノ手續及ヒ程規ニ依リ取扱フヘ
キモノナリトス

○第三章 官有物ニ關スル訴訟審判ノ手
續

(一〇六) 此ノ章ニ於テモ又所有權ニ關スル所ノ訴
訟審判ト入額若クハ資本ノ徵收ヲ以テ目的ト
スル所ノ訴訟審判トノ區別ヲ要スル者ナリ

○第一條 所有權ニ關スル訴訟審判

(一〇七) 官有物ニ關スル訴訟ハ府知事縣令ニ依テ

始メラレ若クハ保護セラル、者ニシテ其一部
分ハ普通法ノ主義ニ從ヒ其他ノ部分ハ左ノ如
ク略言シ得ヘキ特別ノ主義ニ從フモノトス

(一〇八) 先ツ第一ニ千七百九十年十一月五日ノ法
律第三卷第十五條ノ文言ニ依レハ國ニ對シテ
起スヘキ訴訟ハ其何タルニ係ハラズ又其原告
ハ何人タルニ係ハラズ前以テ單ナル覺書ヲ作
リ往時ニ於テハ府縣ノ行政委員今日ニ於テハ
府知事縣令ニ之レヲ上訴シタルノ後ニ在ラサ
レハ之レヲ起スヲ能ハズ此覺書ハ國ノ敵手タ

ルヘキ原告ノ訴旨ヲ記載スヘキモノニシテ成
ル可クハ此覚書ヲ以テ將ニ起ラントスル所ノ
訴訟ヲ止メントスルノ目的ナルモノナレハ兩
造呼出シノ前ニ之ヲ差出スヲ要スルモノトス
此レ假令ハ和解試法ノ如キモノナリ此レ即チ
官有物ニ関スル訴訟ニハ民事訴訟法第四十九
條ヲ以テ和解試法ノ件ヲ除キタルノ理由ナリ
此ノ覚書ヲ差出シタル月ノ中ニ府知事縣令ヨ
リ何レノ回答モナキ中ハ原告ハ直ニ裁判所ニ
向テ訴訟^ヲ得ヘキモノトス

一〇九 千七百九十年ノ法律第十三條及ヒ第十五
條ノ總文意ニ依レハ該覚書ノ差出シハ其訴訟
ヲ起サントスル者ノ何タル(一)個人、府縣、町村若
クハ公有設置(ニ)係ハラス又其訴訟ノ本訴タリ
枝訴タリ若クハ更訴タルニ係ハラス必ス之レ
ヲ要スルモノナリト論定セサルヲ得サルナリ
二〇 然レモ前以テ覚書ノ差出シハ反對及ヒ助
助^者ノ訴願ニシテ假令其本訴中ニ起リタルニモ
セヨ本訴ノ目的ヲモ性質ヲモ變更セサル所ノ
者ニ就キ參議院ヨリ常時裁判所ニ送附シタル

ノ訟事ニシテ此ヲ送附ハ國ニ對シテ訴訟ヲ起
ス下ノ~~訴訟~~可ニ適當スルモノナルノ訟事ニ就キ
行政府ヨリ發シタル納金命令ニ對シ抗抵法ニ
依リ發コシタル訴訟ニシテ其抗抵ハ普通法ノ
主義ニ基キ司法裁判所ニ向テ其裁判ヲ請求ス
ヘキ者ニ就キ以上(六九)及ヒ以下(三三)ヲ參看スヘシ
初審裁判ニ於テ被告タリシ者ニシテ國ノ利益
ト成リタル裁判即チ國ノ勝公事トナリタル裁
判ヲ上告スル所ノ者ニ就キテハ必要トスヘキ
モノニ非サルナリ

又府縣顧問會ニ向テ或ハ參議院ニ向テ起スヘ
キ訴訟ニ関スル中ハ此又前以テ覺書ノ差出し
ヲ要セサルナリ何トナレハ此兩裁判權ニ於テ
ハ國ニ對シ起リタル訟事ヲ自ラ監定スルノ權
利ヲ有スレハナリ

(二) 千七百九十年十一月五日ノ法律ノ文言ニ
依レハ前以テノ覺書ハ必ス差出スヘキモノニ
シテ若シ之レヲ差出サ、ル中ハ其訴訟タル無
功ニ屬スヘキモノトス然レモ違法家ハ該無功
ハ公安ニ關係セサルモノナレハ訴訟最初ノ手

大
女
宮

續ニ属スル呼出シノ後ニ於テ然レ氏統テノ他
ノ手續ノ前ニ覺書ヲ差出スニ於ケル哉又ハ國
ヨリ訴旨ニ對スル答弁書ヲ差出スニ於ケル哉
ノ時ニ於テハ其勢カナキヲ決議シ以テ此ノ
法規ニ多少ノ斟酌ヲ加ヘタリトス

(一一) 覺書ノ差出シ及ヒ其府縣廳書記局ニ於テ
ノ登記ハ其月ノ中ニ呼出シノ手續ヲ行ハサル
ヲアルモ尚ホ期滿取リ捨テ中止スルモノト
ス之レニ反シ覺書ノ前以テノ差出シ無ク訴訟
ヲ始メタル中ハ期滿取捨ハ訴訟最初ノ手續ニ

属スル呼出シノヲ以テ中止セラレサルモノ
ナリ何トナレハ其呼出シハ無功ニ属スルモノ
ニシテ且民法第二百四十七條ニ依レハ若
シ呼出シニシテ其手續ヲ履行セサルヨリ無功
ニ属シタル中ハ期滿取捨中止ノヲモ更ニ之レ
無カリシモノト認ムヘキモノナレハナリ

(一二) 第二千八百三十四年七月三日ノ該當卿
決定第一條ノ文言ニ依レバ國ノ名ヲ以テ起ス
ヘキ官有物ニ関スル訴訟若クハ其所有權ニ関
スル訟事ハ其何人ニ對スルニ係ハラス預メ官

有物長ヨリ訴願ノ趣旨ヲ掲記スル覺書ヲ諸証
據ト共ニ兩造ニ通知シ一ヶ月内ニ其答弁書ヲ
差出サシメン為メ之レヲ府知事縣令ニ差出し
タル後ニ在ラサレハ之レヲ始ムルヲ得サルモ
ノトス該一ヶ月ノ期限ヲ過クレハ府知事縣令
ハ其受取リタル所ノ覺書ニ付キ其意見ヲ起ス
モノナリトス

(二四) 該覺書ノ差出しモ其兩造ヘ、通知モ又其
兩造ノ答弁書モ皆國ノ利益トナル期滿取捨ヲ
中止スルノ結果ヲ有スル能ハサルモノナリ

(二五) 府知事縣令ニ於テ國ノ名ヲ以テ一訴訟ヲ
起スカ若クハ一訴訟ニ對シ國ノ權利ノ保護ヲ
ナスカノ中ハ府縣顧問會ノ意見ヲモ參議院ノ
許可ヲモ要セサルモノニシテ唯政府ヨリ受タ
ル所ノ命令ヲ遵奉スルニ止ルモノトス府知事
縣令ニ於テ國ノ權利ニシテ司法裁判所ノ前ニ
於テ勝利ヲ得ヘキ性質ナリト判定スル中ハ預
メ大蔵卿ノ許可ヲ要スルコトナク司法裁判所ニ
向テ其訴訟ヲ起シ若クハ國ノ權利ヲ保護スヘ
キモノトス之レニ及シ府知事縣令ニシテ國ノ

適手ニ於テ勝利アルヘキトノ意見ヲ發コスル
ハ之レヲ^其敵手ニ知ラシムルヲ無ク一週間内ニ
其意見ヲ大藏卿ニ上陳スヘシ大藏卿ハ官有物
事務局ト協議ノ上該意見ヲ認可シ若クハ放棄
スルモノトス

(二六) 第三ニ於テ府知事縣令ハ其原告タル被告
タルニ係ハラシテ代訴ノ手續ニ依ルヲ以テ必要
トセサルナリ佛朗西第一共和政府第四年暑月
十日ノ執行権ノ決定ハ府知事縣令ニ命スルニ
國ノ權利ニ関スル諸書類ヲ檢事局ニ送致スル

トヲ以テシタリ而シテ該檢事局ニ於テハ其訴
訟ノ性質上必要ナリト思考スル所ノ^モ法論及ヒ
結願^{コソク}ヲ發スルノ權アルモノトス尚ホ今日ニ於
テモ適法家ハ殆ント皆此ノ決定ヲ適用シ且府
知事縣令及ヒ官有物事務局ニ於テ國ノ代理ヲ
為スルハ更ニ代訴人ノ手續ニ依ラサルノ權アル
ルモノト認定ス然レ^モ此ノ代訴人ニ依ラサル
ノ權ハ唯國ニ屬スルノ^一能力ナレハ若シ其之
レヲ適宜ナリト判定スル^ルハ通常ノ手續ニ依
テ已レヲ保護スル^ル即^チ代訴人ヲ立テ其權利

又保護セシムルヲ得ルモノナルハ此又違法家
一般ノ認定スル所ナリ而シテ國ハ通常此ノ終
リノ手續ヲ履行スルモノナリトス

(二七) 官有物ニ関スル裁判ヲ上等裁判所ニ上告
スルカ又ハ破毀院ニ上訴センニハ府知事縣令
ハ大藏卿ノ許可ヲ携帶スルヲ要スルモノトス
千八百三十四年七月三日ノ規則第十四條及
十八條參看然レ氏元來此手續タル唯國ノ利益
ニ於テ必要トシタルモノニシテ何レノ立法法
規ニ依テモ命セラレタルモノニ非サレハ假令

之レヲ履行セサルヲアルモ以テ國ノ敵手ノ利
益トナルヲ能ハサルナリ

(二八) 尚ホ爰ニ記載スルヲ要スルノ一事ハ民事
訴訟法第一号第一項第六十九條ノ法規ハ該訴
訟法第四百五十六條及七百七十條ニ依リ上
告ニ関スルノ使吏証事ニモ適用スヘキトニシ
テ即チ該証事ハ府知事縣令其人ニ若クハ其住
處ニ通知スヘキモノトス而シテ假令裁判ノ判
決ハ官有物長ニ住處ニ通知スヘキト決定シタ
ル中ニ於ケルモ尚ホ然ヲトス

(二九) 官有物當該官ヨリ賣却シタル動産ノ得收者ニ對シテ、動産所有權ニ関スル司法訟事ニ於テハ假令ヘ其物ニシテ陸軍省ヨリ出テタルモノナルモ於ケルモ就中解役軍馬ニ関スル中ニ於ケルモ府知事縣令官有物當該官協議ノ上官有物ニ関スル定規ノ手續ニ依リ且千八百三十四年七月三日ノ規則ヲ遵奉シテ之レヲ取扱フモノトス(千八百四十三年十二月四日ノ大藏卿決議ヲ參看スヘシ)

(三〇) 府縣顧問會ニ呈出シタル訟事ハ兩造ヨリ

差出ス所ノ覺書ニ就キ審理判決セララル、モノニシテ千八百六十五年七月十二日ノ勅令ヲ以テ訴訟ノ起法書類并ニ覺書、差出方覺書ニ對スル答弁書ノ兩造各々ヘ通知方事務ノ編制、判決ノ編纂、謄寫及ヒ保存等ニ関スル一切ノ事ヲ規程シタリ(府縣顧問會ノ篇ヲ參看スヘシ)

(三一) 佛朗西第一共和政府第八年兩月二十八日ノ法律ヲ以テ其處斷ヲ府縣顧問會ニ任シタル官有物ニ関スル訴訟ニシテ之レカ上告ヲナスルハ千八百十一年迄ハ大藏卿ノ側ヲニ設置シ

タル國民官有物局ヲ主トル參議院議員之レヲ
審理シ該議負ヨリ直チニ參議院ニ向テ其報告
ヲナスモノトセリ然レ氏千八百十一年二月二
十三日ノ皇帝勅令ハ該局ヲ廢止シ官有物ニ関
スル府縣顧問會ノ判決ニ就テノ上告直チニ行
政裁判委員ニ呈出シ該訟事ノ審理ニハ千八百
六年六月十一日及ヒ二十二日ノ規則ヲ遵奉ス
ヘキトヲ命令シタリ

三三

○第二條 納金徵收ニ関スル訴訟審判
官有物ニ屬スル權利及ヒ入額ノ徵收ニ関

スル訴訟審判ハ唯リ官有物事務局ノミ佛朗西
第一共和政府第七年霜月二十二日及ヒ第九年
風月二十七日ノ登記稅ニ就テノ諸法律ヲ以テ
規程サレタル手續ニ從リ司法裁判所ニ向テ之
レヲ取扱フモノナリト虽モ唯其異ナル所ハ納
金命令ハ官有物長之ヲ下附シ財産所在ノ民事
裁判所長之レニ認印シ之レニ施行權ヲ与フル
ト千七百九十一年八月二十九日九月十二日ノ
法律參看該訴訟審判ハ金額ノ大小ニ因リ其之
レヲ適當トスル中ハ二段ノ裁判權ヲ受クルト

以上(一〇四)及(一〇五)ヲ參看スヘシ之レナリトス

(三三) 國有動産賣却ノ代價及(國有不動産賣却ノ代價ニ就テハ納金命令ハ官有物長之レヲ下附シ府知事縣令之レニ施行權ヲ与フルモノトス而シテ納金命令ニ對シ抗抵法ヨリ起リタル訴訟ハ權利及(入額ニ関スル事件ニ於テノ如ク之レヲ取扱フモノナリト虽氏若シ抗抵法ノ法論ニシテ納金命令ノ據テ起ル權利ノ點若シハ證據ノ正否ノ點ニ關係スルキハ談訴訟ノ取扱(官有物ニ関スル事件ニ於ケル如ク即チ

千八百三十四年七月三日、該當卿ノ規則ヲ以テ規程サレタル手續ニ依ルモノトス

(三四) 國有不動産賣却代價ノ納殘リ金額ニ関スル事件ニ於テノ納金命令ハ官有物長之レヲ下附シ府知事縣令之レニ施行權ヲ与フルモノトス

(三五) 佛朗西第一共和政府第十一年暑月四日ノ政府ノ決定第四條ニ依レバ府知事縣令ハ上納殘金ヨリ生スル訟事ニ付テハ終審ノ判決ヲ以テ之レヲ審理スヘキモノナレ氏其判決ハ大藏

卿ニ之レヲ上訴スルヲ得ヘシ而シテ千八百十三年十一月十一日ノ勅令ノ文言ニ依レハ大蔵卿ノ決議ハ通常ノ手續ヲ以テ參議院ニ呈出スルヲ得ヘキモノトス

アルベール、ヴェルポー誌

○書目略之

○比較行政

官有物諸種類ノ區別ハ羅馬法律ニ或ハ寧口自然ノ道理ニ基キタルモノナリ何レノ國ニ於テモ人民一般ノ共有ニ屬スル所ノ共有物ト國ノ

世襲國有物ト區別シ又何レノ國ニ於テモ國ノ

官有物ト州ノ官有物ト町村ノ官有物トヲ混合セ^ララン^トヲ期スルカ如シ諸著述家就中日耳曼著述家ノ精神ヲ窺モ勞セシ所ノ者ハ皇有物ノ權利是レナリ然ラハ此皇有物ノ件ノ各國ニ於テ確定スルハ蓋シ遠カラサルヘク各國ノ多クニ於テハ竊早皇有物ハ國ニ屬シ一方ニ於テハ國ノ所有物一方ニ於テハ國王ノ私有物ヨリ他物ナカラン此事タル各國ノ内部政治ニ關スル^トナレハ今爰ニ於テ之ニ論及セサル可ク又鑛山耕作地等官有物ノ支配ニ最良ナル方法ノ

太政官

トニモ論及セサルヘシ該官有物支配ノトハ日
耳曼ニ於テ最モ驗究シタル所ナリ然レ氏該國
ニ以レキ間行ハレタル封建權利ト及テ從テ起
リタル小藩國ニ於テノ分裂トハ羅馬法ノ主義
ニ反對スルニ國ト國王トヲ混合シタル王權ノ
主義ヲ以テレタリ該國ニ於テ國王ノ君主權ニ
附屬セシメシ所ノ殆ント神秘トモ云フヘキ職
任ハ又少シク此ノ王權ノ主義ニ基キタルモノ
ト云フヘシ此等ノ理論ハ日々消滅否ナ寧口近
世風ニ變スルモノトス而シテ此等ノ事ヲ記述

スルハ公法ノ曆史ニ屬スルモノニシテ今爰ニ
之レヲ一言シタルハ唯記憶ノ為メニシタルモ
ノナリ

英吉利ニ於テハ千八百六十六年八月六日ノ法
律（ヴェクトリア二十九一三十卷第六十二章）ヲ以
テ海岸、川底、等ヲ皇有物ノ部ニ計筭シ王權ニ屬
スル此ノ殘物ヲ國ニ讓与シタルノ廉ヲ以テ女
王ニ其補償ヲ與ヘタリ

モリス、ブロック誌

